

### 3) ステロイド剤大量投与に起因する B 型重症肝炎にインターフェロンが著効を奏した 1 例

佐々木 亮・小方 則夫  
田中 泰樹・松田 康伸  
野本 実・上村 朝輝  
朝倉 均 (新潟大学第三内科)  
須田 剛士・宮武 正 (新潟大学神経内科)

B 型肝炎ウイルス (HBV) キャリアの重症筋無力症患者において corticosteroid (CS) 大量投与中に起こった HBV 複製活性化に起因する重症肝炎に, interferon  $\alpha$  (IFN- $\alpha$ ) 投与を試みた. 症例は42歳男性, 血清 HBe 抗原陰性, HBe 抗体陽性, HBV DNA polymerase (DNAP) 陰性であったが, thymectomy 後の CS 投与により DNAP 陽性化を伴う重症肝炎が発現した. IFN- $\alpha$  投与により速やかな HBV 複製減少とこれに続く肝機能正常化が得られ, 更に IFN- $\alpha$  長期投与 (900 万単位, 週2回) により原疾患に対する CS 投与を行いながら DNAP 陰性化と肝機能正常化の維持に成功した. IFN- $\alpha$  長期投与による原疾患悪化, 重篤な慢性的副作用, 自己免疫疾患発現並びに抗ウイルス効果減弱は認められなかった. 免疫抑制剤投与中に惹起される重症 B 型肝炎に対して IFN は有効な治療法になりうるものと考えられた.

### 4) 腎移植後に発症したサイトメガロウイルス肝炎の 1 例

片桐 次郎・小島 豊雄  
渡辺 裕・大貫 啓三 (立川総合病院内科)  
八木沢 隆 (同 腎臓外科)  
小幡 紀夫 (同 腎臓内科)  
福田 剛明・佐藤 啓一 (新潟大学第二病理)

症例は26歳男性, 会社員. 慢性腎不全で昭和62年8月5日生体腎移植施行. 術後約40日頃より, 明らかな肝機能障害, 黄疸, 発熱, リンパ球優位の白血球増多, 異型リンパ球が認められ, サイトメガロウイルス抗体価は移植前, 補体結合法で4倍以下, 肝炎発症後抗体価は1024倍と有為な上昇を認め, ELISA 法でも IgM 分画で2.0と陽性を示し, 咽頭ぬぐい液, 尿中からサイトメガロウイルスが培養された. これらよりサイトメガロウイルス肝炎と診断した. 9月25日より8日間インターフェロン  $\beta$  600 万単位を連日点滴静注を行い, インターフェロン投与直後より解熱傾向, 黄疸, 肝機能, 肝脾腫の改善が認められ, 本例にはインターフェロン  $\beta$  が有効であったと考えられた.

### 5) 最近経験した急性肝内胆汁うっ滞 3 例の臨床的検討

佐藤 明・曾我 悟  
細野 浩之・森 茂樹  
鈴木 雄・藤田 一隆  
月岡 恵・何 汝朝 (新潟市民病院)  
市井吉三郎 (消化器科)

### 6) 当院における自己免疫性肝炎 4 例の検討

須田 剛士・大矢 実  
畠山 重秋・阿部 惇 (新潟県立中央病院)  
斉藤 秀晃 (内科)

過去2年間に自己免疫性肝炎と思われる4症例を経験したので報告する. 症例1, 4は症例4が若年男性例であった以外は, 典型例であった. 症例2は組織学的に未確認であるが, PSL 投与により r-gl, ANA の減少と相反し, AMA の上昇, および ALP 漸増を認め, PBC-CAH mixed type との関係上興味もたれた. 症例3は, 検査成績上は自己免疫性肝炎が強く疑われたが, 組織学的にはこれを示唆する所見は得られず, 急激な経過をとった例で, 自己免疫性肝炎における劇症化, ウイルス性肝炎との関係等を含め, 早期の診断と適切な治療の必要性を痛感させられた. 以上, 過去の報告よりも高い発生率を示し, 非典型例も存在することより, 慢性肝疾患においては, 診断時常に自己免疫性肝炎を考慮する必要があると思われた.

### 7) 吸着式血漿交換を行った 3 症例の検討

中山 倫子・加藤 俊幸  
佐藤 正之・斎藤 征史 (県立がんセンター)  
丹羽 正之・小越 和栄 (新潟病院内科)

ビリルビン吸着式血漿浄化法を3例に行った. 症例1は41歳女性, NANB 型劇症肝炎亜急性型. 意識障害は I 度であったが, TBL 22.5mg/dl, PT 39.6%に達したためビリルビン吸着療法を7回行った. これによりビリルビンが低下すると共に凝固能も改善し救命し得た. 症例2は54歳男性, NANB 型劇症肝炎亜急性型. 13回の血漿交換により意識障害は改善したが, TBL は 37.2 mg/dl まで上昇した. このため吸着療法を11回行ったが, 効果なく死亡した. 症例3は70歳男性, 術後肝不全. 6回の吸着療法により TBL は 18.7mg/dl から 9.2 mg/dl まで低下したが, 意識障害は改善しなかった. ビリルビン吸着療法により TBL は前値の70%に低下し, 翌日85%に上昇するが, 回数と共に徐々に低下する傾向がみられた.